



今年も 熱気球 やってくる

MOTEGI熱気球インターナショナル チャンピオンシップが開催されます

毎年11月、芳賀町に飛んでくる「熱気球」。茂木で行われている競技大会なのは知っている人も多いことでしょう。来年は世界大会も開催される予定です。

毎年、飛んでくる？

気が付くと、青空にフワフワ浮いている熱気球。「ボワァ〜」と音をたてて空高く上がって行く。「すこいね〜」「きれいだ」「でっかい!」と思わず見とれてしまいます。芳賀町の景色と熱気球が一緒に、私たちの目を楽しませてくれます。

何が行われているのか？

「MOTEGI熱気球インターナショナルチャンピオンシップ」茂木町のツインリンクもてぎをメイン会場に5日

間にわたり繰り広げられる熱気球の競技大会。多くの人が出会い、協力し、大会の成功と地域の活性化に全力を尽くすという、参加型の広域国際イベントとして成長を続けています。

なぜ、芳賀町に飛んでくるのでしょうか。熱気球の飛行を競う大会では、速さや正確さで順位を決めます。芳賀町に飛んでくるのは、目的が芳賀町内に設定されているか、風の影響で飛ばされるかどちらかになります。

昨年の大会では、ゴールがJAが野祖母井倉庫西側に設定されたため、夕暮れの中大きな熱気球の群れが、道の駅はがのお客さんの目を楽しませました。逆にゴールから

今年も見られるの？

はなれてしまい、遠くまで飛んで行く熱気球もありました。見ていると、思わず、ほのぼのしてしまいます。でも、競技者は真剣そのものでした。

11月23日から27日までの期間、天候で変更になる場合もあります。芳賀町が会場になる競技が行われる予定があります。そうすれば、今年も熱気球を見ることができるといえます。あの興奮を今年も味わえます。

遠くから見てゆつたりとした時間を楽しむ。ゴール地点で主催者の解説を聞きながらその競技の緊張感と参加者の飛行技術に酔いしれる。それぞれ違った楽しみ方がありますが、せつかく近くに飛んでくるのですから、思いっきり楽しんでみてはいかがでしょうか。

◆気球の歴史

1709年、ブラジル生まれでポルトガル・リスボンの宣教師で優秀な数学者・物理学者「パソロミュー・ローレンツォ・グスマン」は、時の国王ヨハン5世に宮殿に招かれた折、「空と海の上を飛び、王国のあらゆるところに至る方法」について説きました。

国王から研究への資金提供の約束を取り付けたグスマンは、1709年の6月から8月にかけて4回の飛行実験を行い、気球が燃えてしまった

初回を除き、無人の飛行に成功しています。

特に3回目の実験では、それまでよりも大型の気球を使用し、約1kmを飛行したとされます。彼はこの一連の実験により、教会による異端審問にかけられたため、それ以降の実験は行われず、有人飛行にも至っていません。彼がどのようにして熱気球のアイデアを得たかという点については、依然謎のままです。

その後、1783年にはフランスのモンゴルフィエ兄弟が人類初の有人飛行を実現することになりました。



▲モンゴルフィエ兄弟の熱気球 (1783年)

